



広報

1月号

にのみや

第353号 発行日 平成4年(1992年)1月15日

編集 二宮町広報編集委員会
発行 二宮町総務部企画室 二宮961番地 電話71-3311

二宮町民憲章

1. 郷土を愛し、自然をいかすきれいな二宮町をつくりましょう。
1. ふれあいを深め、ことばをかけあうさわやかな二宮町をつくりましょう。
1. きまりを守り、良習をはぐくむ住みよい二宮町をつくりましょう。
1. 幸せを願い、健やかな、明るい二宮町をつくりましょう。
1. 教養を高め、文化のかおる豊かな二宮町をつくりましょう。

慶賀

「二十一世紀の二宮」

脇 康博くん (山西小学校2年)

ぼくは、二宮町には海があるから、海をかきました。
びるが、いっぱいあると、とうきょうみたいだから、びるをすくなくして、みどりをおおきました。
これが、ぼくが考えた二十一世紀の二宮の町です。



新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
町民の皆様には、日ごろより町政と議会に対し、暖かい御理解と、絶大なる御協力をいただき厚く御礼申し上げます。
私も議員一同は、広範な議会活動を通じて、常に皆様の生活向上を図り、皆様のご期待に添えるよう十二分に努力する所存でございます。本年も皆様の御指導と御協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



二宮町議会議長
二見 恭二



二宮町長
西山 喜徳郎

新年明けましておめでとうございます。平成四年の年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。
私は「福祉と教育のモデルまちづくり」をテーマに、町政に取り組んでまいりましたが、本年もこの流れの中で特に「町民総ぐるみボランティア運動」と、「町民総ぐるみ健康づくり推進運動」を展開し、健康で明るく思いやりのあるまちづくりを実現したいと存じます。町民のみなさんのご指導とご協力を賜りたくお願い申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。



座談会出席者

- 江原紀子さん（二宮在住、幼稚園教諭）
- 末永 寧さん（山西在住、クリーニング業）
- 鉢迫 渉さん（百合が丘在住、学生）
- 馬目慶二郎さん（中里在住、学生）
- 安田真理子さん（富士見が丘在住、学生）
- 山田美佐代さん（富士見が丘在住、会社員）
- 西山喜徳郎町長
- 森 徳好（広報編集委員、会長）
- 司会

司会 安田さんはどうですか。
安田 私は福祉の関係の仕事がしたくて、大学の社会福祉学課へ通っています。そんな関係でボランティア活動のサークルに入っているんです。土・日は二宮にいないで、サークル活動に打ち込んでいます。
司会 末永くんはどうですか。
末永 僕は今、クリーニング屋で修業をしているんですけど、月曜日から土曜日まで、仕事が目一杯つまっているという感じで、余暇はないっていう



福祉と教育のモデルまちづくりを語る町長

馬目 僕は学生なんです、ふだんの日は割と余裕があるので、休日はアルバイトが中心です。司会 がんばって学費かせいでいるんだね。
馬目 いえ、遊ぶお金で。（笑）

たをとったり、都会の子にはできないことをしてきたので、これでいいのかなという気がします。司会 馬目くんはどうですか。
馬目 僕は小学校三年生のときに二宮へ越してきたんですけど、最初に受けた印象は、とてもおのびりしたところだなというところでした。住むにはとても良いところだけど、のびりし過ぎていて、子供のころは感じなかったけれど、ほかの人のように新しく入ってきた人と昔から住んでいる人が、うまくかみあっていないんじゃないかと思っています。新しい人は町をただ寝るところと考えているし、昔から住んでいる人は、その人たちのためのやり方で町の動し方を決めちゃっているようで、そんなところが古くさくていやですね。
司会 女性の意見も聞いてみましょう。安田さん、いかがですか。
安田 緑が多いっていうところが好きですね。とくに都会に動きに行っている人にとっては、心が落ちつくし、そういうところは絶対に残して欲しい。ただ、いま言われたように、新しい人

だ残念なことに、面積が八・九六平方キロしかなくて、人口密度が県下でも非常に高いんですね。そこで、町内の工場を、一か所に集めて、住環境を良くするために、二宮高校のところに工業団地をつくったり、また、宅地の供給もして町の発展を図りたいという大きな流れの中で、開発を行っています。自然と調和のとれたまちづくりをしたいと考えています。



ゆとりを大切にしたいと話す末永さん

新しい住民と古くからの住民の交流についてですが、町では今から二五年程度まえに百合が丘団地が造成され、続いて富士見が丘団地、日鉦団地が開発され、いまは、富士見が丘三丁目近くの松根というところが開発されています。そして、二宮町最後の大きな開発になると思わ

期待してまちの将来

司会 今度は町長に今後のまちづくりについて話していただきたい。その後みなさんに質問などしてもらいましょう。
町長 昨年の十一月三十日に初登庁して一年余りになります。私はまず「ハードからソフトへの切り替えの時代」と言ったんですが、これは建設事業などをやらないということではありません。建設事業などもどんどんやりますが、その中で人の心の暖かさを大事にしたいということなんです。例えば道路をつくるにしても、歩行者や障害者をお持ちの方が安心して通れるような、生活者の心を大切にした事業をやりたいということなんです。また、いまは豊かになってきて物より心を大事にしなければならぬ時代です。そこで、私は「福祉と教育のモデルまちづくり」を目指しています。いま、日本が成功して繁栄しているのは、明治以来百年の教育が実を結んだと言っても過言ではない



庁舎正面玄関前にて

と思います。ただ、江原さんが言ったようにそれにこだわると進歩がない。いまの世の中進歩が早くて、一日たつとガラッと変わっている。時代の流れを適切につかんでい

を十年先、二十年先を見てどうしていくかが大切なことだね。環境にしても、葛川なんて昔は清流ですよ。野菜を洗ったり、洗濯をしたりしてね。ところが、下水道が整備されていないのに住宅が増えて、家庭の雑排水が流れ込んで汚くなってしまった。結局自分たちが、自然を壊してしまったんですね。だから二十一世紀に向けては、そういう反省のもとに、悔いを残さないまちづくりをしなければ、というのが私の考えなんです。



園児に福祉を教えたいと話す江原さん

町全体が幸せになる。そういう教育の理想を掲げて向かっていきたいですね。それから、高齢化社会を迎えて、いままで一生懸命に国づくりをしてくれたお年寄りに感謝し、生きていてよかったというようにならなければ



相手の気持ちを理解した福祉を語る鉢迫さん

町長 奉仕の気持ちをはみんな持っている。それを行動に表わせるように町が誘導していきたい。私たちはすでに日常生活で様々なボランティアを行っています。献血をしたり、体育協会や文化団体の活動などもボランティアですよ。まちで会ったお年寄りに「お元気でですか」と一声掛けてあげるような、心のかよったあたたかい行政が大切だと思うんです。
司会 馬目くんはどうですか。
馬目 私はだれが町の状態を一番肌で知っているのか、よく考えて欲しいと思います。例えば道路行政にしても、道路の様子



心を大切にしたいと話す安田さん

と理解が必要だと思うんです。それがないとボランティアは押し付けになってしまう。ボランティアは時間がないからという問題ではなく、そこいらじゅうにあると思います。缶が落ちていたら「もしも目の不自由な人がふんだら」と考えて拾う。そういうのもボランティア活動の一環だと思います。
町長 下水道の整備については、今年を下水道元年として山西の方から面整備に入りまして。今後、二十年計画で町全体に下水道が敷設される予定です。それから、福祉と教育については、それなりの施策に取り組み理想を掲げて、それに一步一步近づけるように努力していきたいというのがスローガンです。いま、日本は豊かになって、他人にも何かしてあげようという心のゆとりがでてきたと思います。この助けあいの気持ちを実際の行動に移してもらい、あたりまえのこととして定着させたい。そのためにボランティアをしようということなんです。また、いままでの教育は、客観的な評価をするために点数を重視して人間性を軽視するといった傾向がありました。ただ、これからはゆとりのある教育をしようという方向が国でも出されているので、良い方向にいくと思います。また、子供の数が減る中で、町では幼児教育の充実のために力を入れて、出生率減少の中で密度の高い人づくりをしていこうと考えています。
司会 みなさん貴重な意見ありがとうございました。これで、新春座談会を終わります。

